

## 令和7年度 第2回倉沢人形歌舞伎調査委員会

### 1 開催日時

令和7年12月16日(火) 午後2時～午後3時34分

### 2 開催場所

花巻市石鳥谷総合支所 3階大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員 5名

大谷津早苗委員 (昭和女子大学教授)

中村良幸委員 (花巻市文化財保護審議会委員)

中嶋奈津子委員 (花巻市文化財保護審議会委員)

下林育男委員 (倉沢人形歌舞伎保存会事務局長)

松橋香澄委員 (花巻市博物館学芸係主事)

#### (2) オブザーバー 2名

橋本かおる (文化庁文化財第一課芸能部門文化財調査官)

大沢勝 (岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課文化財担当主任指導主事)

#### (3) 事務局 3名

文化財課 上野剛課長、伊藤真紀子課長補佐、里舘いづみ主査

#### (4) 傍聴者 なし

#### (5) 報道関係 なし

### 4 内容

#### (1) 協議

ア 調査報告書目次(案)について

イ 今後の調査方針について

### 5 議事録

#### (1) 開会 (進行: 上野課長)

[倉沢人形歌舞伎調査委員会成立報告 委員7人中5人出席]

[オブザーバー2名を紹介]

#### (上野課長)

それでは始めさせていただきます。ただいまより、令和7年度第2回倉沢人形歌

舞伎調査委員会を開会いたします。本日は年末のお忙しい中、そしてまた寒さも厳しさを増してきております中、委員の皆様方におかれましては、当調査委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また本日は、オブザーバーとして文化庁文化財第一課から橋本文化財調査官様、そして岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課から大沢主任指導主事様にお越しいただいております。ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日は前回7月の委員会に続きまして、本年度第2回目の調査委員会でございます。

先月の23日には、委員の皆様方におかれましては、倉沢人形歌舞伎伝承館において開催されました定期公演の方をご調査いただきまして、委員長様からは今後の調査や伝承活動についてのご助言をいただいているところでございます。

また、前回の調査委員会では、委員長様から、まずは調査報告書の構成、目次を固めるのが先決であるというご助言をいただいておりますことから、本日は委員長様からご提案いただいております調査報告書の構成案、目次についてご提示させていただきます。委員の皆様方にご確認いただきまして、ご意見を賜りながら、それぞれの項目についての調査担当をお決めいただき、調査を進めていただければと、そのように思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速、次第3の協議に入りたいと思います。

以降、協議の進行につきましては、倉沢人形歌舞伎調査委員会設置要綱第4条第2項の規定によりまして、委員長をお願いいたします。それでは大谷津委員長様、進行をよろしくお願い申し上げます。

## (2) 協議

### ア 調査報告書目次（案）について

(大谷津委員長)

皆さん、こんにちは。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

やはり雪があるのだなと思ってちょっと新鮮でした。もう冬の感じが進んでいる印象で、やはり花巻ってこういう所なのだなと思って。こういう風土の中で、あの倉沢人形歌舞伎が伝承されてきたということを肌で感じて、来させていただくことに非常に意味があるなと思いました。

先月23日には初めて公演を拝見して、伝承館という素朴なおうちの中で伝承されている。ああいう形が残っているのが、皆様にとっては当たり前かもしれないです

けど、非常に特徴があるなと思いましたし、そういったところを表に出していくと  
いうか、価値づけをしていきたいと思いました。

人形歌舞伎って、なかなか人形芝居なのか歌舞伎なのか、外から見ているとよく  
分からないところもあったのですけれども、拝見すると、ああやはり人形歌舞伎だ  
と思いました。人形を遣いながら台詞をおっしゃって。菊池さんにも伺ったら、遣  
っているだけじゃ面白くないと。やっぱり台詞を言って演じないと面白くないのだ  
とおっしゃったので、やはりこれは人形歌舞伎なのだと実感した次第です。

そういった、外から見て非常に特徴があって価値があると思えるような点を、は  
っきりと形に出していきたいと思っていますので、報告書の作成をどうぞよろしく  
お願いいたします。

本日は協議項目が2点ございます。はじめに、調査報告書の目次案について、皆  
様と協議をさせていただきたいと思います。まず事務局より説明をお願いいたしま  
す。

[伊藤課長補佐から配布資料の確認]

[伊藤課長補佐から資料No.1の説明]

[協議]

(大谷津委員長)

はい、ご説明ありがとうございました。事務局からのご説明を基に協議をさせて  
いただきたいと思います。丁寧に説明していただいたので流れがはっきりして、ご  
理解いただけているかなと思うのですけれども、章立てとか節立て、項目の過不足  
等、あとは今おっしゃっていただいた調査担当と執筆担当の確認ということです  
ね。そのところをまずご意見いただきたいと思います。

想定ページも事務局と相談して、これぐらいかなという感覚であります。ここは  
もう少し多くなりそうだとか、こんなにいらぬとか、意見がありましたらぜひい  
ただきたいと思います。

あとは、付録として付けるDVDの内容について一応考えていることがございます  
ので、そのあたりのところを共有してご意見をいただきたいと思います。いか  
がでしょうか？

章立て、節立てのところ、私が考えるとこのぐらいかなと思っております。た  
だ、まだ未確定のところがありまして「倉沢人形歌舞伎のあゆみ」のところは、や  
はり資料を見てからというか、資料から得られる情報次第でそこはもう少し動くだ

ろうなと思っております。

木戸口委員から質問が寄せられておまして、常次郎の日記のようなものはここで触れていいのか、1節の常次郎のところで触れていいのか、というようなご質問が来ております。この中身次第では、その日記に何が書かれているかということ次第では、ここでは収まらないところもあると思いますし、上演演目が出てきたらそちらの方にまとめることになると思いますし、まず解説をしてもらって、その情報で少し章立てや節の構成が動くと思います。

あとはいかがでしょうか。義太夫節の専門家、音楽の専門家を委員に加えるということでご了解をいただいたところですので、この人選をどのタイミングで誰がするのかというところを、はっきりと決めていただきたいと思っております。

あとは「今後にむけて」というところは、私が一方的な意見を書くということもありだと思っておりますけれども、ぜひ伝承者の方々と交えて座談会のような形をとって、そこで伝承者の方々の意見をぜひ聞かせていただいて、そういったことを反映するというような案も考えております。

「特色と価値」のところに関しては、やはり総説と結び付けて私が担当させていただく形になると思うのですが、なかなか難しいところがあって、人形浄瑠璃師といっても、いわゆる本当の人形浄瑠璃、三人遣いの人形浄瑠璃ではないので、それをどういうふうに位置づけるかというのはなかなか難しいところかなと思っています。ただ、こういった挟み遣いの一人遣いの人形芝居は、東北各地に伝承されていることから、その中での位置づけができればいいなと思っています。

その下地といいますか、情報として、第6章に「東北各地の人形芝居」という章を置いたところですが、「倉沢人形歌舞伎の系譜」と副題をつけているのですが、系譜になるかどうかというところがなかなか微妙なところで、少し考えていきたいとは思いますが、これも木戸口委員から事前に質問をいただいているので、関連する団体だけでよいか、それとももう少し広範囲に、東北を網羅するような形で、秋田とか青森とか山形とかの団体を入れるのか、というような質問を受けています。もう既に木戸口委員の調査があるものに関して、それぞれ青森とか秋田とか山形のものには取材済みなのですが、その他の追加調査の必要性というものを検討してほしいという質問をいただいております。

事務局のご説明に加えて、私の伺いたいところが今考えているところなのですが、何か質問であるとか意見であるとかございましたら、何でもおっしゃっていただければと思います。

今日、木戸口委員がいらっしゃらないので、質問いただいてここでやり取りでき

ないところがとても残念なのですが、非常にごもつともなご意見でして、3章に関しては日記の内容次第で構成を変える必要があるだろうということですね。

(伊藤課長補佐)

創始者の菅野常次郎さんについてはすごく長くなる可能性があつて、日記の内容も盛り込まなくても、いろいろなことをしていらっしゃる方なので、そういった伝記風の紹介だけでも結構なボリュームになるかもしれませんし、プラスしてその日記解読の中で分かってきたようなことがあれば、もちろんここに入れた方がいいと思われるのですが、まず解読からですね。

(大谷津委員長)

せっかく新たな資料が発見されてきたので、それはぜひ活用して報告書を作った方がいいと思います。確実な資料なので、それを活かす形で章立てもできればいいなと思っております。木戸口先生にはご苦勞をおかけしますが、このところをご担当いただくということで、重ねてお願いをしていただければと思います。

あとは、中村先生はじめ、中嶋先生、松橋先生にお願いする部分はかなりあるのですけれども、これは節ごとに担当を決めなくてもいいですか。結局調査担当と執筆担当はどのようにしようかという感じなのですけれども、どうやって出しましょうか。そのあたりは先生方で割り振ってお考えいただければと思います。

(伊藤課長補佐)

各先生方も忙しい時期がございますよね。ちょっとここは調査出られないとか。そういったところもあると思いますので、今確実にここできっちり決められないところもあるかとは思うのですけれども、3人で協力して調査に当たるということではご了解いただけそうな感じでしょうか。

(中村副委員長)

今5章のページ割りを見ていたのですが、多分全然ページ数が足りないのかなという気がします。なぜかという、装着とか動きとか何とかは、解説で書いてもほとんど分からない可能性があるのです、結構写真を多く配置しなければいけないと思うのですよ。そうすると、とてもこの5ページ云々というのは少しな過ぎるので、5章は少し膨らむと思います。

それからもう一つ、義太夫の台本と、普通の台詞の台本とをどうするかというこ

とが、それをどこまで載せるかによってページ数は全然違ってきます。見た感じのボリュームだと、あれをそのまま載せてしまうと、それだけで100ページぐらいになっているのではないかなという気がしますが、それをどういうふうにするのかということがこの中では触れられてないので、そういう扱い、それから写真も何枚か付けるとなればページも増えますし、それはどの章のどの辺に行くのか、あるいはダイジェストだけにしてしまっただけ載せないのか、その辺によって随分ボリュームは変わってくるかなと。

(伊藤課長補佐)

付録でDVDかCDか何か付けようということであれば、本文中に載せきれなかった写真類、台本類の全部の写真とかを、付録の方で載せることもあるのではないかなと思います。

ある程度写真のボリュームがあるので、このページ数では全然足りないのだろうというのはその通りだと思いますので、適宜増やしていただく感じでよろしいのではないかと思います。

(大谷津委員長)

よろしいですか。私の考えでは、資料は資料として、たくさんあれば一覧の形ですね。資料はこの最後の付録の、資料一覧のところですね。それは義太夫に関しても日記類に関しても全部一覧の形で、中身まで全部入れようと思ったら、それはDVDになると思うのですが、そこまで必要かどうかということですね。表紙の写真とか、一部表紙の写真とか。

(伊藤課長補佐)

なるほど。リストで示すだけで、写真全部は膨大だからいらないのではないかなという話ですね。

(大谷津委員長)

あとは章立ての中で使うような部類ですよ。義太夫節のところでは義太夫台本とかというような場合はそこに載せていけばいいので、全部載せるという感覚ではないです。適宜応じて使っていくと。なので、私の感覚でいくと、活字として載せて冊子にするのは、やはり200ページ前後ぐらいのボリュームではないかなと思ってます。そのぐらいの演目数と人形の数と衣装の数、用具類であると、だいたい尻

高人形の報告書、文化庁からそちらに行っていると思うのですけれども、あのぐらいの感じだと思います。同じぐらいのボリュームですので。なので、そういった形が現実的なのではないかと思っております。

もちろん写真を多用していただいて、写真は装着のところとか、基本の動き、手首を動かすとか指をこう動かすとかそういったところは、やはり映像で撮って、文字化もするのですけれども、映像に撮って、5分や10分とかという映像でDVDに入れてもらおうと、この報告書と対応しながら見ていただくということが可能だと思われれます。だからDVDが必要であるというふうに考えています。

演目における芸態というのもそうです。芸態も、台本がこうあったところに、このところで登場するとか、このところで台詞を言うとか、動きはこういうふうにするとかという人形の動きを言葉に沿って記載してもらって、そのところに舞台写真も差し込みながらというものを想定しています。ただ静止画ですから、その動画をDVDに入れる。そして、DVDを見ながらその演目の台本を見ていくということが出来るような形を作るということです。

私が相談したいと思ったのは、1演目というふうにしたのですけれども、何がいいでしょうか、というご提案を少しいただいております。

『景色』とか『三番叟』とか、その間のところの、前回は『景色』を推されていましたが、何が一番特徴的、一番特徴を表すのに適した演目でしょうか。下林さん、何がいいでしょうか。

(下林委員)

そうですね、一番はこの『傾城阿波の鳴門』ですね。あれはやはり全国版といたしますか、母と子のあれで皆さん涙します。演じているというか、役者はたった3人しか出ないのですけど。他でサポートする私達も何かウルウルときちゃうという。あれはやはり全国版ですね。

あと、面白いものがあります。『岩見重太郎狒々退治』ですね。狒々退治というのは、長野に戸隠山があるのですけども、それが結構面白いです。狒々退治。狒々に負けたりやり返したりとか、そういう演目もあります。

あと、この間11月23日の定期公演の『本朝廿四孝十種香の場』。武田信玄の息子、武田勝頼と、上杉謙信の娘、八重垣姫。それがいい仲になり、結局、上杉・武田がうまく仲直りするというような感じの物語です。それがけっこう受けました。

(大谷津委員長)

ありがとうございます。いわゆる三人遣いの『十種香』とだいぶ違う独自性がある、それはそれで面白かったなと思うのですが、『岩見重太郎』というのも、東北地方の傀儡界で行われていて、他では見ない演目なので面白いなとも思っています。『阿波の鳴門』も一度、映像なり何なり拝見して、また少しご相談をしながら進めたいと思います。

場合によっては、1演目が短いので、2つでもいいかもしれないとは思いますが、演目の選択は、もう少し考えさせていただくということをお願いしたいと思います。ありがとうございました。

(伊藤課長補佐)

補足で質問いたしますけど、今は第5章の第4節の「演目に見る芸態」というところで、どれか1つ演目を選んで、初めから終わりまで通しで、ここで人形が出るとかここで何々が起こるとか、ここで音楽が鳴るといったものを説明しつつ、要所で写真や映像で補って、解説を行うというような形式ですね。

(中村副委員長)

それは、静止画を入れるのか、それとも言葉で解説してやるのか。

(伊藤課長補佐)

一応、本なので言葉が基本だと思うのですが、言葉で足りない部分は映像で補ったり写真で補ったりするのでしょうか。

(大谷津委員長)

ここで動かすとか、ここに出るとか、そういう人形の動きを言葉で書いていくということですね。それで、場面としてはこの場面ですよということを静止画で入れる。ただやはり動画もあった方がいいから、DVDで動画を見せる。

(中村副委員長)

ということは、ちゃんとした映像を撮る人に映像を頼まないといけないということですね。

(大谷津委員長)

いえ、そんなこともなくて、分かればいいので、プロではなく本当に手撮りで、

スマホで撮ったものでも大丈夫です。

(中村副委員長)

そうすれば、さっきの台本との関係ですけども、『傾城阿波の鳴門』をやるといったら、それ1つだけ解説すればあとは一覧表だけでいいのであれば、極端に言えば、他のものはほとんど全部読まなくてもタイトルだけでいいということになりますか。

(大谷津委員長)

ただ載せるのはそうですね。掲載としてはそうです。ただ、記事を書くに当たって音楽担当の人に調べてもらって、そこは特徴的とか特徴があるだとか、逆に無いのかとか、そういったことはもちろん調査はしてもらう必要はあると思います。調査結果を文章中で中身として反映してもらおうということです。それ自体を全部報告していくという必要は特にはないです。

(中村副委員長)

そうすれば、人を雇う計算をしているはずですが、その分全部雇えるのですか。

(伊藤課長補佐)

そうですね。資料類が今発見されているものだけで120冊あって、そのうち台本類が60近いのですが、その60冊を全部読まなければいけないとなると、1冊20ページとして全何ページあるのかという感じになっているので、この60冊の台本を全部読む必要がないのではないかというのであれば、解説のお願いをする人とかお金が少し節約できるなどは思いました。

(大谷津委員長)

台本以外も60ぐらいあるのですよね。

(伊藤課長補佐)

日記が25、大福帳が20、その他が20ぐらいとなっております。

(大谷津委員長)

そちらが大事なのではないですか。

(伊藤課長補佐)

そうですね。日記類あたりから攻めるようにという指示が来ていましたので、まずそちらからやりたいと思います。

(大谷津委員長)

大福帳とかも手掛かりのようなものを書いてあるというのは非常に面白いと思いますし、日記はどこをどう移動しているとか、公演の深掘りとかできれば面白いなと思いますし、そちらをぜひ読んでもらった方がいいかなと思います。台本は見る人が見れば、大体こんな内容というのは分かるので。

(伊藤課長補佐)

そうですね。印刷物のものも多いですし、大きくその内容が変わっているものではないと思います。了解いたしました。

(大谷津委員長)

大福帳とか日記の解説というのは、まだ着手されていないということですか。

(伊藤課長補佐)

まだ手つかずでございます。これから進めます。

(大谷津委員長)

その人選とかはどうなのでしょう。義太夫節の専門家の人選とかは、先ほど申し上げましたが、誰がするのでしょうかというところが。事務局に時間があるのであれば、早めをお願いして当たってもらった方がいいかなと思うのですけども。

(伊藤課長補佐)

音楽の専門家に関しては、全く事務局では手探り状態でございますので、委員長もしくは文化庁の方にどなたかご紹介いただいて、しかるべきタイミングでとおっております。

皆様方の任期が来年の10月31日までとなっておりますが、その任期にこだわりのものでもありませんので、5月とか6月から新しい方に頼んでもよろしいですし、更新時期の10月でもいいというふうには考えております。

(大谷津委員長)

来年の10月31日までということですか。私たちは。

(伊藤課長補佐)

そうです。

(大谷津委員長)

この文化庁の国庫補助ではない形の任期が10月31日までということですか。

(伊藤課長補佐)

国庫補助関係なく、今この7名の方は10月31日までの任期です。

(大谷津委員長)

補助が出たらまた新たに変わる。

(伊藤課長補佐)

補助は関係なく任期10月31日まででございまして、花巻市の財布から費用が出るか、文化庁の補助をもらって費用が出るかというような違いのイメージでございます。

(大谷津委員長)

委員会の組織は。

(伊藤課長補佐)

更新になります。事務局の考えとしては、皆様に引き続きまた2年の任期で更新をお願いしたいと思っております。

(大谷津委員長)

委員会の組織を少し変えるというか、オブザーバーさんの立場に移っていただくタイミングとしてはいつなのですか。

(伊藤課長補佐)

10月31日です。

(大谷津委員長)

来年の10月31日、やはりそこで1回区切るといふ。

(伊藤課長補佐)

そうです。

(大谷津委員長)

ただ、音楽の専門家を入れるとしたら、もうすぐに入れてもいいという感じですか。

(伊藤課長補佐)

4月1日以降になりますけども、可能です。

(大谷津委員長)

一応考えてはいるのですけれども、まだ打診はしてないです。だからそれは何とも分かりませんが、神奈川の相模人形芝居のほうの義太夫節の担当をしてくれている、民俗音楽の専門家の方です。打診して聞いてみていいということであれば近日中に聞いてみますけど、それでよろしいですか。

(伊藤課長補佐)

お願いいたします。

(大谷津委員長)

はい、分かりました。

彼女は寺田さんというのですけれども、音楽学会とかに入っていますし、今、相模女子大の非常勤講師をしていて、元々民俗音楽の中でも三味線音楽が専門です。栃木県の奈佐原文楽という文楽を調査したときに、一緒に調査員として動きました。そのときに彼女は台本を見て動きを書いて、音楽的な形式とか、師匠の系統の研究であるとか、まさにここに書いてあるようなことをやった経験があるということです。それで、引き受けてくれれば適任だと思います。調査官、いいですかそれで。

(橋本文化庁調査官)

はい。

(大谷津委員長)

あとは解読のほうですよ。やはりどうするか。

(伊藤課長補佐)

そうですね。それも地元で用意できればいいのですが、無理そうであればどなたかご紹介いただくということを考えております。これについても、また改めて大谷津委員長と個別でご相談させていただきたいなと思っていた事項ではございます。

(大谷津委員長)

分かりました。県内では少し厳しいですか。

(伊藤課長補佐)

なかなか難しいかな、と思います。花巻の古文書解読できる人たちとか少し無理そうな感じがあります。博物館のほうで頼んでいる仕事もあるのでちょっと、とおっしゃっていたので。

(中村副委員長)

博物館では多分飽和状態なので、無理だと思います。ただ盛岡とかあっちの方では古文書の解読の組織が結構あるみたいなので、県外に出さなくても、県外に出すと後で打ち合わせとかいろいろ大変なので、できれば県内ということで一応。

(伊藤課長補佐)

分かりました。県内をまず探してみたいと思います。後で中村委員、相談に乗ってください。

(中村副委員長)

岩手県古文書学会とかありますので、そこに声かけてみるとか。

(伊藤課長補佐)

そちらに頼りたいと思います。

(下林委員)

倉沢に菊池金吾さんという古文書の先生がいました。高齢になって、少し難しいな。

(伊藤課長補佐)

菊池金吾さん、そうですね。

(大谷津委員長)

古文書のデータ化といえば、それで遠方に行けば多分読めるので、先ほどそちらで挙げた方も厳しいようなら、ご相談いただきたいと思います。

(伊藤課長補佐)

はい、改めて相談させていただきます。

(大谷津委員長)

はい、ありがとうございます。よろしく願いいたします。

それでは、4章、5章のあたりは、中村先生と中嶋先生と松橋先生で割り振っていただくということによろしいですか。

私はあと2つ気になっているところがあって、1つは、史料一覧を載せるとか、事務局が担当される部分が結構あります。これはおそらくアルバイトの方かどなたかを頼んでやってもらう形だと思うのですが、こういった部分の手当というのも一応お考えでいらっしゃいますか。

(伊藤課長補佐)

はい、来年度アルバイトでお願いする予定でございます。文化庁にもその分の補助をお願いしているところですので、一応当てはあるということでご了承ください。

(大谷津委員長)

安心しました。それなら大丈夫です。

もう1つは、写真の担当です。調査員が自分で撮った写真を入れるということも当然やっていくのですが、人形とか衣装とか大道具・小道具、幕というのを私たちが撮ってもいいのですが、少し心得のある人に、業者委託はできないのです。

か。そういうものは報償費で払うのでしょうか。

(伊藤課長補佐)

いえ、やりようだと思うので、来年はその予算を取っていないのですけれども、令和9年なりで考えてみたいと思います。影とか変な映り込みがないようにセッティングしておいて、人形を撮るといような感じですよ。

(大谷津委員長)

調査補助員という形で報償費を払うということができると思うので、プロではなくても、ただやはり写真に詳しい人がいいなと。アマチュアだけだとすごく上手な人とか、写真が好きな人とか、という人が一番望ましいです。できれば背景とかも統一して、写真屋さん、もうやめてしまった写真屋さんとか何か少し探していただくといいかなと。

(伊藤課長補佐)

撮りたいものというのは、人形の頭とか衣装とかそういうものを撮るといイメージですか。

(大谷津委員長)

そうですね。そこが一番分量的にも多いですし、載ったときに一番並ぶところだと思います。あとは、公演の回数が1回なのでその時しかないのですけれども、舞台写真というものも必要になると思います。

口絵も意識しないといけないと思います。口絵に何を載せるかという。口絵写真も印象が大事ですから、何を載せるか。その写真を最初から頼んでおくということも必要かなと思っています。

(伊藤課長補佐)

分かりました。少しその辺は考えながら事業を進める中で、いい感じの写真を撮れる人を頼めるようであれば、頼む感じでいきたいと思っています。

(大谷津委員長)

はい、ぜひそこもお考えいただければと思います。

皆様から何か、お気づきの点なり何なり、どうぞ。

(中嶋委員)

はい、いくつか確認させてください。

少し飛びますが、5章の「技芸の習得、演目の見どころ」というところがござい  
ますが、これは一応、今現在上演されている演目の見どころということによろしい  
ですね。そして、それを伝承者の方々にインタビューして、それが終わったらまず  
良しという形で。承知しました。

あと、少し戻りますけれども、第2節の「人形の装着」というところがございま  
す。人形各部の名称、そして装着の仕方と特徴というのは、演者がどのように構え  
るといふか、そういった意味の装着でよろしいでしょうか。衣装を着せるとかでは  
なくて。それも含めてですか。

(大谷津委員長)

はい、それも含めてです。衣装の中が見えたほうが良いと思うのです。なので、  
挟んでいるところとか指にこう付けているとか、それをどういふふうに動かして手  
を表現するとか、頷きをどう表現するとか、そういった基本の動きのようなものを  
一つ一つ挙げられたらいいなと思っています。

(中嶋委員)

承知しました。結局は、演者の方がどのようにお人形さんを身に付けて扱うかと  
いうところで、衣装も絡めていくということですね。ありがとうございます。

あともう1点、お願いになってしまうのですが、人形歌舞伎の芸態を記載する上  
で、何かこうお手本のようなものを示していただければ、それに沿って書いていけ  
るのかなと思います。

(大谷津委員長)

はい。既に報告書がありますので、それをご覧いただければ参考になるかなと。  
事務局のほうにはありますか。ないですか。八王子車人形の報告書がPDFでネット  
上にあります。

(伊藤課長補佐)

ではそちらのPDFをネットで探して皆様に共有したいと思います。

(大谷津委員長)

一部、これは載せたくないという部分があって、そこだけ削除しているのだけど、多分演目のところは載っていると思います。

(中嶋委員)

承知しました。人形歌舞伎の記録は初めてなので、こちらにも慣れずミスしたら困るからと思いましたが。文章で、写真をふんだんに載せて、長い文章ではなく書く。

(大谷津委員長)

そうです。一行くらいずつ、ずっと書くわけではなくて飛び飛びですね。変化があるところで。多分ご覧いただければ、すぐこんな感じかと分かると思います。

(中嶋委員)

はい、ぜひ拝見させていただきます。

(大谷津委員長)

よろしくお願いたします。ありがとうございます。

人形を遣う方が、ここがすごく実は難しいのだよとか、ここは面白いところなのだよとか、そういうところも反映できればいいかなと思っています。見ているだけではなくて、演者の人たちが「ここをぜひ見てほしい」というところを聞いていただければいいかなと。

いかがでしょうか。他には。もう1つ、芸態の記載はないのですが、尻高人形の報告書というものを前回文化庁からいただいたと思うのですが、そういったものを回覧していただくことはできますか。今ではなくていいのですが、いずれ参考として。

(伊藤課長補佐)

そうですね、参考になる先に出ている報告書の写しは、皆様に共有したいと思います。

(大谷津委員長)

そういったものを参考にさせていただいて、ぜひ不安を払拭していただくということでよろしくお願いたします。ありがとうございます。

他に先生方、何かございますか。また何か思い浮かべたら、いつでもご発言いただけたらと思います。

一応ここで目次については終わりということによろしいですか。

(意見等なし)

イ 今後の調査方針について

(大谷津委員長)

では次に移りたいと思います。協議事項の2つ目「今後の調査方針について」ということで、事務局よりご説明をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

[伊藤課長補佐から資料No.2の説明]

[協議]

(大谷津委員長)

はい、ご説明ありがとうございました。ご質問等ございますか。

調査事業を10年度までといったふうに延ばしたということですね。今回が委員会の第3回目なのですか。

(伊藤課長補佐)

今年の3回目ではなく、通しで3回という意味でした。

(大谷津委員長)

今年でいうと2回、通しだと3回ということで、今年度は、もう委員会の予定はないということですね。次は令和8年度の5月に、第4回目が予定されています。あとは、それぞれ3回ずつということですね。ただ文書調査とか撮影、構成要素の中の調査事業が、スケジュール表で予定の線が引かれてしまって、この中のどこかでということなのですが、早めに決めておいた方がいいと思います。撮影はこの月のこの日にやる、ということのを計画されていたほうがよろしいかと思います。やはり、なかなか小回りがきかない調査になりますので、早めに決めておくことをお願いしたいと思います。

あとは文書調査の具合でしょうか。この中身の出具合でだいぶ変わってくるの

で、今年度から来年度にかけて、できれば令和8年の早い段階で、徐々に情報が出てくるといいなと思います。

実質3年あると思っても3年目はもうほぼないので、原稿を集めてまとめるだけの話ですから、来年度、令和8年と令和9年の実質2年しかありません。だから撮影はやはり1年目に最初にやっておいて、足りないところを次の年に補うという形をとっておかないとまずいと思います。

それぞれ3回ずつ（委員会が）ありますけれども、情報の共有といいますか、この文書を解読したらこういう内容だったというような、得られた知見の共有というものをその都度聞きたいと思うのですけれども、これは委員会の中で報告されるという認識でよろしいですか。

(伊藤課長補佐)

はい、そうですね。都度メール等で流せるところは、写真等々、情報共有いたしますし、委員会の都度、進行状況については皆様にご報告する予定でございます。

(大谷津委員長)

そうですね。委員会でもぜひ記録に残しておいて、報告していただいたほうがいいと思います。

あとは、その年の成果のまとめですね。この年はこういう成果がありましたというような、成果発表という機会をもつことが多いです。というか、大体そうやって、皆さんの税金を使ってやらせていただいているわけなので、それを還元するという意味で、公開でやったりすることもあります。なので、成果発表のことも少しお考えいただくといいかなと思います。

(伊藤課長補佐)

成果発表というと、どういう感じでしょうか。

(大谷津委員長)

こういう調査をして今こういう状況です、こういう知見が得られました、というようなことでしょうか。こういう形で会をもって傍聴に来てもらってもいいですし、それを広報して、ぜひ来てくださいといった形でもいいですし、どこか会議室とかそういう所を予約して、講演会のような形でそれぞれの担当者がお話をするということもありだと思えます。

(伊藤課長補佐)

分かりました。何となくイメージがつかえました。

(大谷津委員長)

それをすることで、やはり調査をやっているということを周知するという意味もあるし、人々にぜひ知ってもらって応援してもらうような土壌を醸成するという意味もありますので、やはり外に開いていくということをそろそろお考えいただくといいかなというふうに思われます。

撮影の、誰がやってくれるのかということも出ていますけども、撮影の計画をぜひ新たに立てていただきたいと思います。

(伊藤課長補佐)

とりあえず、自前で撮れる感じの撮影で進めていきたいと思います。

(大谷津委員長)

まずはライティングとか背景幕とかをやはり統一したほうが見栄えがいいので、その辺は少し詳しい人なら大丈夫だと思いますので、ぜひその辺に気をつけていただければいいと思います。

あとはやはり先ほどの目次に返るのですが、お三方に丸ごとお任せしているという形がまだ続いていますけど、その中でぜひ割り振ったらフィードバックしてもらいたい。この項目は松橋先生とか、この項目は中嶋先生だとかというふうに、話し合いの結果は事務局で情報収集してほしいと思います。

(伊藤課長補佐)

はい。宙ぶらりんにならないように。

(大谷津委員長)

私たちがこれをぜひ認識しておきたいと思います。

(中村副委員長)

写真の件で、道具を撮るのは下林さんとかにお願いして写真撮ればいいですけども、問題は演目の出し物の写真なのですが、だいたい年間の定期公演であれば1演目から2演目やるのですよね。

(下林委員)

そうですね。

(中村副委員長)

それで『三番叟』とか『景色』はどの場面でもやりますけども、他の演目を2年間の間に、はたして写真が撮れるかどうか。

(下林委員)

少し難しいですね。古いDVDはありますが、全部の。

(中村副委員長)

それは少し難しいですよ。だからこれを何とかしないと、例えばこの中の演目全部を何かしらに載せるのは難しくなってくるので、うまく調整して、定期公演だけではなくて、呼ばれて行ったときに、また別な演目をやりますという情報がありましたら、教えていただければ。

この『本朝廿四考』とか『阿波の鳴門』、『三番叟』、『景色』は私も写真を撮っています。あと『岩見重太郎』も撮ってありますが、『奥州安達原』とか『白浪五人男』とか撮っていないので、この辺の演目を。

(下林委員)

白浪は人でやりました。人形ではやらないです。面白くないと言われるから。

(中村副委員長)

そうですね。それが多分写真として残していないので、それをやはり相談して、この2年の間に何とか写真に収めていくことができれば。

(下林委員)

来年何をやるかまだ決めていないのですけども。

(中村副委員長)

できれば、やっていない演目で何かしら考えていただければ。

(下林委員)

『安達』かな、という感じですね。安倍貞任・宗任の。

(中村副委員長)

はい。その辺が。

(大谷津委員長)

そうですね、ぜひ撮っていただいて。

(中村副委員長)

この「出し物」と書いてあるもの、これを全部、一応写真を撮って載せたいところはあります。

(大谷津委員長)

最新のものがあると一番いいのですけれども、もうどうしようもなければ過去のものを差し込む形かとは思いますが。この報告書事業が終わった後、撮影の映像制作の事業が入ることですから、練習だと思って今からぜひやっていただければありがたいというふうに思います。

他には何かございますか。よろしいですか。

(伊藤課長補佐)

来年の公演の予定というのは、まだ定期公演しかありませんね。

(下林委員)

はい。定期公演だけの予定です。まだあちこちからオファーが来ていないので。

今年もあまり来なかったです。地元の成島振興センターでは大体8年ぐらい続けてやっていました。そうすれば同じものをやるので「またか」なんて言われて。それがちょっと。

(大谷津委員長)

県外というか、盛岡でもありなのですからけれども、花巻以外で公演をするということには少し抵抗がありますか。大変ですか。

(下林委員)

そうですね。昔、全日本郷土芸能協会に入っていたので、あちこち行っていました。それこそ阿波の鳴門の徳島、あそこまで行きました。ただ、こういう公演までできません。荷物を持っていけば100万円以上かかるので、とてもじゃないけど。

東北6県、宮城県ではやっていないのですが。山形、秋田、岩手、青森、福島には行きました。

(大谷津委員長)

舞台を持っていくのはなかなか大変ですか。

(下林委員)

ええ。東北であればいいけど、あとはちょっと。

(大谷津委員長)

東北、近郊くらいだったら車で持っていけそうですね。

(下林委員)

はい。結構やりましたね、東北で。たまに行ったり来たりして。

(大谷津委員長)

たくさん観てもらったほうがいいと思っています。いろいろな人に。

(下林委員)

ところが、人形歌舞伎と名乗っているのは倉沢だけです。他のところは人形芝居。なぜ芝居なのかと。歌舞伎みたいな感じでやっているところもありましたし、あと本当の人形芝居もあります。

(大谷津委員長)

やはり、広くいろいろな所でたくさん公演してもらって、知ってもらえたらいいと私は思っています。すごく面白いので。

(下林委員)

そうですね。

(中村副委員長)

令和8年度の予定表の中に、1月・2月に教育委員会主催公演と書いているけど、これは何ですか。

(伊藤課長補佐)

予算を今要求してしまして、予算が付いたらやります。付かなかつたらまた来年になります。

(中村副委員長)

この時にいくらかでもやれば。

(伊藤課長補佐)

調査事業をやるため、1公演やらなければならないからぜひと言って、今予算要求しているところですが、市内のどこか、前は文化会館の中ホールでやったので同じ感じか、駅前か、どこか場所を用意してといった感じです。

(大谷津委員長)

予算が取れるといいですね。ぜひ。そのときに成果報告のようなものを付けるのもいいかなと思いますし、第6回の委員会と重ね合わせてもいいと思います。

(伊藤課長補佐)

はい。

(大谷津委員長)

予算獲得をぜひお願いしたいと思います。  
何か他にございますか。

(中嶋委員)

芸態を記録する演目はできるだけ早く決めたほうがいいですか。

(大谷津委員長)

そうですね。

(中嶋委員)

撮影の件もありますし、多分お得意なものがたくさんあるでしょうから、その中でも1つ、早めに決めていただければと思います。準備もできるので。

(下林委員)

そうですね、はい。

(中嶋委員)

お願いします。

(大谷津委員長)

先生方は何がいいと思いますか。中村先生、いかがでしょうか。

(中村副委員長)

私は『阿波の鳴門』が好きなので。

(大谷津委員長)

『阿波の鳴門』強いですね。

(中村副委員長)

あれはいいですよ。『岩見重太郎』も面白いですけどね。

(下林委員)

『岩見重太郎狒々退治』ですね。

(伊藤課長補佐)

『岩見重太郎』はチャンバラが面白いですよ。ただ、観客のおばあちゃんとか泣いていますからね、『阿波の鳴門』の女の子が語るシーンで。

(大谷津委員長)

切ないですよ。

(中村副委員長)

それで、この4節をやるときに、当初の映像の再集録を付けるというのは、何か前例はあるのですか。5章の第4節のところですか。映像と台本に沿って記載すると、そのDVDは他でも作ってあるのですか。

(伊藤課長補佐)

先ほど委員長が、八王子の車人形とかっておっしゃっていましたが。

(大谷津委員長)

そうそう。作っています。八王子も付いていますし、奈佐原文楽も付いています。大体それが常套なパターンというか、普通なパターン。

(中村副委員長)

ではそれを見せてもらわないと、イメージが全然湧かないです。

(大谷津委員長)

PDFだとDVDが付かないから、調達してお送りできるようにします。

そうしましたら、演目のほうは『岩見重太郎』か『鳴門』か、というところでしょうか。『重太郎』はチャンバラとか入るわけですよ。2つの演目で全然動きが違うわけですよ。

(下林委員)

狒々退治なので、狒々役が大変で。ものすごくあちこち動く。

(中村副委員長)

面白いですけどね。あっちから出たりこっちから出たりする。

(大谷津委員長)

なるほど。

(下林委員)

もう決まっていますけどね。私しかできないと。

(大谷津委員長)

『鳴門』はやはり汎用性があるというか、他と比較の点で、すごく広がっていますからいいかなと確かに思います。皆さん本当に感動的だということであれば、一応その2つを考えていきましょうか。

(伊藤課長補佐)

そうですね。あと定番の『三番叟』と『景色』は入れて。

(下林委員)

『三番叟』と『景色』はそうですね。『三番叟』は最初で『景色』は最後。それは決まっています。

(大谷津委員長)

どちらにしてもそう長い演目ではないので、多分大丈夫ですね。

(下林委員)

公演のときに2演目入ることもありました。『鳴門』を何としても入れてくれと。そうしたら、次は泣いた後に面白いものとして、『岩見重太郎狒々退治』があると。泣いた後に、くすくすっと面白いもの。ギャップがあっていいと。

(大谷津委員長)

とても面白いですよ。泣くものと面白いものと。

(下林委員)

はい。泣いたり笑ったり、人生それでいいのではないかと。

(大谷津委員長)

いい感じで、倉沢らしいという気もいたしました。ではその2演目で、あとは『景色』と『三番叟』で、お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(伊藤課長補佐)

そうですね。あと、8年度の調査のスケジュールについては、個別にお伺いしながら、現地組のほうはいつ頃何ができそうかというのは、また改めてお伺いしてスケジュールリングしたいと思います。

(大谷津委員長)

はい。事務局と打ち合わせをされて、そちらはぜひよろしく願いいたします。

あとは木戸口先生が追加調査というお話もありますし、私も総論とか特徴を書く上で少し動きたいと思っていますので、ぜひよろしく願いしたいと思っています。

それでは、協議のほうはそのぐらいでよろしいでしょうか。では、オブザーバーでご参加いただいております橋本調査官と大沢様、ご意見を頂戴したいと思えます。では橋本調査官、お願いいたします。

(橋本文化庁調査官)

はい。本日はありがとうございました。いつもはオンラインで参加させていただいておりましたので、今日ようやく対面でこうして皆様にお目にかかることができ嬉しく存じます。

繰り返しになりますけれども、本事業につきましては、次年度から国庫補助での実施を検討されていることで、今年度に関しましては市の単費での調査事業でありますけれども、こうして文化庁もオブザーバーとして参加させていただいているという次第でございます。

次年度の補助事業に向けては、この9月に文化庁との事前協議という形で、大谷津委員長、中村副委員長、そして岩手県、また花巻市の事務局の皆様にもお集まりいただきまして、事業内容ですとか予算計画について協議の場を設けさせていただきました。本日はそこで話し合った内容も踏まえて、資料にある事業計画等をおまとめくださったと認識をしております。

説明の中にもありましたけれども、その中で、国庫補助事業として元々2年計画であったところ、多数の資料が見つかり、その解読に時間を要するということから、3年の計画に見直されたと認識しております。その点も実態に合わせた形で変更できてよかったかなと思います。

私からも細かい点でいくつかコメント・質問等させていただければと思います。

まず、今年度のその事業の着地点といいますか、今年はその資料の撮影等ももう着手はされていると思うのですが、その撮影は全部終わられて、そのデータ共有も皆様にされているという状況でよろしいでしょうか。

(伊藤課長補佐)

撮影についてはあと1冊ぐらいで終わりますので、情報共有についてはこれから

皆様にお送りするという形になります。

(橋本文化庁調査官)

承知いたしました。そうですね、やはり今年何をやったかという意味でも、そこまできちんと皆様に共有することができると良いのかなと思います。

本日、目次を基に、調査担当ですとかそういったところもご議論いただきましたけれども、もちろんその調査を進めるに当たり、この目次案を基に調査担当を決めるという作業はとても重要な作業であると思いますが、その一方で大谷津委員長からもお話がありました通り、やはりこれからその資料の内容が明らかになってくるというものですので、これはやはり随時見直しが必要になってくるものだと思います。

スケジュールの方で見ますと、一応今日をもって目次報告書構成の検討が終了というふうにありますけれども、ここで終わりではなくて、今後も調査の進捗に合わせて見直していただくようお願いをいたします。

本日の協議の中で、例えば撮影をお願いしたりですとか、古文書の解読であったりとか、この委員のメンバー以外にもお仕事を願うような案も出ていると思います。

また、映像を報告書に付けるという計画をいただいておりますけれども、当初予定されていた映像の内容ともまた変わってきたところがあると思いますので、今日参考として付けてくださっている5ページ以降の、予算のほうですね、事業計画につきましては、今文化庁にもこの形で提出いただいていると思いますけれども、早急に差し替えをお願いできればと思います。こちら間に合いそうでしょうか。できれば年内に頂戴できると、と思いますけれども。

(伊藤課長補佐)

鋭意努力いたします。

(橋本文化庁調査官)

また、年を明けますとヒアリング等も控えておりますので、そのときにはよりブラッシュアップした事業計画を基に、改めてお話を伺えるような体制を整えていただければなというふうに思います。

あと、情報共有というのが、やはりこういう委員会で1つの事業を実施していく上では、大変重要なところかなと思います。委員長をはじめ私も、地理的に離れた

メンバーもいますので、まずスケジュールの共有と、あと作業のお話もありましたけども、知見の共有というところですね。そこを何とか工夫いただいて、どういふふうにこの事業が進んでいるかというのをきちんと共通認識を持った上で進めるようにすることが大事であると考えます。

例えば、前回もお話があったと思うのですが、保存会の方で、11月23日の、定期公演の日程は決まっておられると思いますけれども、それに向けた稽古をいつされているのかですとか、そういった情報を、せっかく今日下林さんが参加してくださっておりますので、スケジュールを教えていただければ、今後の調査の計画を立てる際の参考にもなると思います。

また、誰がいつ何の調査をするのかということも、やはりある程度見えるような形で進めていただくことで、この調査に行かれるのであれば自分も参加したいであるとか、そういうことができると思いますので、そのあたりは事務局のほうにもよく工夫していただき、密に連絡を取り合っていただければと思います。また何か思いついたら後でもお伝えするようにいたします。

(大沢県教委主任指導主事)

岩手県の大沢です。

岩手県があまりお手伝いできなくて大変恐縮なのですが、さっき公開の機会という話があって、事務局のほうには前にちょっとお伝えしたかと思うのですが、岩手県で毎年12月に民俗芸能大会をやっています。

(伊藤課長補佐)

県民会館でやるものですよ。

(大沢県教委主任指導主事)

先週やっていたけれども、あれは確か市町村の方から推薦を出していただいて、実際にやっているところは、教育委員会というよりはうちの文化振興課が主催でやっているのですが、そういった機会もありますので使っていただい

(伊藤課長補佐)

舞台設営に半日かかるのですがいいですか。

(大沢県教委主任指導主事)

そこはちょっと詳しくは分からないのですけれども、もし使えるのであればうまく使っていただいて。いつも、いわゆる民俗芸能は神楽とかああいうものが多いので、こういう芸態のものもあってもいいのかなとは思っているのですが、いろいろな制約はあるかもしれないのですけれども、少し検討していただいて、我々の方でも何かこういう機会があれば情報提供したいと思っていますので、ぜひそういう形でお手伝いできればなと思っていますので、よろしく願いいたします。

(大谷津委員長)

はい、ありがとうございます。どうぞ。

(下林委員)

人形関係の舞台セッティングがあるから、なかなか。この部屋だと3分の1は舞台に取られますので、ほんの少しの方しか見られません。文化会館では大ホールでなく、中ホールでやったのですけども。そういったことでなかなか、場所設定で難しいです。

道具を運び入れる裏口というか、そういうのがないと結構大変です。みんなに手伝ってもらって運ぶのですが、荷物というか、道具を素人の人が落としたりして壊されたこともあったり。ですから色々難しいと思って、自分たちでやらないと駄目だなと。手伝ってもらっては、ちょっと危ないなというところもあります。

そういう足場を組み立てて幕を張ってという、舞台セッティングに2時間かかります。ですから、結構な時間を要するということがネックです。

(大谷津委員長)

はい、ありがとうございました。なかなか制約もたくさんあって厳しいところではあるのですけれども、やはり何か見つけて、広報であるとか、色々な側面から県にも応援いただいて、全体で盛り上げていきたいと思えます。報告書が出て終わりではなくて、報告書は1つの契機であって起爆剤であって、そこをステップに広く知ってもらい、価値を見てもらうというところまで行くのが目的ですから、ぜひこの調査期間中もその後もそういう流れができるように、ぜひよろしく願いしたいというふうに思います。ありがとうございました。

それではここで進行を事務局にお返ししたいと思います。

(上野課長)

大谷津委員長様、スムーズかつ的確な進行をいただきまして大変ありがとうございました。そしてまた委員の皆様も、ご活発なご協議をいただきまして大変ありがとうございました。

それでは、次第の4番でございます。その他でございますけれども、事務局からは特段用意してございませんけれども、皆様方から何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、令和7年度第2回倉沢人形歌舞伎調査委員会を閉会いたします。皆様、本日は大変ありがとうございました。